

2024年10月11日

Press Release

タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館

どうやってこの世界に生まれてきたの？

How Did You Come into the World?

会期：2024年9月27日（金）－2025年3月9日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

出品作家 カミーユ・アンロ、尹秀珍、AES+F、トレイシー・エミン、オスジェメオス、ジャッコ・オリヴィエ、ミリアム・カーン、片山真理、マウリツィオ・カテラン、加藤泉、金氏徹平、モリーナ・ギャレス、キュンチョメ、ゲド・クイン、草間彌生、トゥアン・アンドリュウ・グエン、オスカー・グッタイル、工藤麻紀子、鴻池朋子、トマス・サラセーノ、塩田千春、スーパーフレックス、杉戸洋、高田冬彦、高橋喜代史、高山明、ジャナイナ・チェッペ、千葉正也、ヴァジコ・チャッキアーニ、セバスチャン・ディアズ・モラレス、奈良美智、西村有、ペトリット・ハリライ、ウラ・フォン・ブランデンブルク、藤倉麻子、キーガン・マクハグュー、アド・ミノリーティ、ヤン・ヘギュ、ガブリエル・リコ、ピピロッティ・リスト、ゴセット・ルポンド、ミカ・ロッテンバーク、渡辺豪、和田礼治郎

[上映プログラム] ハンス・オブ・デ・ピーク、インカ・ショニバレ CBE、ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ、山城知佳子

弘前れんが倉庫美術館では、日本有数の現代美術のコレクションであるタグチアートコレクションとの協働で企画展「どうやってこの世界に生まれてきたの？」を開催します。

—幸せになるために生まれてきたわたしたち

わたしたちはどうやってこの世界に生まれてきて、何をめざして生きているのでしょうか。

現在の世界では、理解できないことや他者への怖れによって引き起こされる、終わりの見えない争いや分断が絶えることはありません。それは戦争のように国単位で起こるものもあれば、インターネット上での書き込みや、学校や職場、日常生活の中での些細な会話の中に潜んでいることもあります。生きていることが大変に思えるくらいの困難に直面すると、わたしたちはさまざまな行動を起こします。今いる場所を、より良い環境にするために周囲の人たちと話し合うこと。異なる考えを持つ人が、同じ場所で共に生きていけるように、社会のあり方を変えていくこと。いろんな考え方や知恵を学ぶために、別の土地へ旅をしたり移り住んだりすること。そして、どうにもならない場合には、そこから逃げ出すこと。こうした行動は、わたしたちがそれぞれに幸せになるための方法であり、安住の地や仲間に出会い、本当の自分を見つけることがこの世界に生まれてきた意味かもしれません。



ジャナイナ・チェッペ《Xicleteoformis Pluralis》2005年
タグチアートコレクション蔵
©Janaina Tschäpe
Courtesy of nca | nichido contemporary art

本展で紹介するのは、世界各地で活動する40組を超えるアーティストたちの作品です。タグチアートコレクションと、弘前れんが倉庫美術館の所蔵作品に、新作を加えて構成されます。身近な空間から異世界への扉を開いてゆくミカ・ロッテンバーク、詩的な旅のイメージの中に不穏な歴史が重なり合うトゥアン・アンドリュウ・グエン、弘前の歴史の一端が垣間見えるロック喫茶と奈良美智の作品、自分の身体を通じて世界と向き合う片山真理、そして本展のタイトルにもなった塩田千春の作品に加えて、街の中で展開する高山明のプロジェクトなど、絵画や写真、映像やレクチャー型のパフォーマンスまで、多彩な作品を通じて、生きることと幸せについて考えようとする展覧会です。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

展覧会のみどころ

1. 社会にひらかれた現代美術の多様な魅力を体感

タグチアートコレクションは、現在、国内外の作家の約 700 点（2024 年 4 月時点）に及ぶ多様な作品を有し、日本を代表する現代アートコレクションとして国際的に高い評価を受けています。幅広いコレクションには、弘前れんが倉庫美術館やこの地に縁の深い作家の作品も多く含まれています。弘前市出身の奈良美智や奈良と親交が深く当地でもかつて展示を行った杉戸洋、青森を含む東北にゆかりのある工藤麻紀子や鴻池朋子ら、当館の歴史や地域にゆかりのある作家と共に、現代社会を反映する国際的に活躍する作家たちの作品を紹介します。また、タグチアートコレクションは、全国の小中学校を会場に作品を出張展示する「デリバリー展覧会」をはじめ、教育普及活動にも積極的に取り組んでいます。近年は、様々な社会問題に向き合う作家たちの作品も多く収集するなど、多様な人々が生きるこの社会に対してひらかれ、進化を続けています。2020 年の開館以来、ラーニングプログラムにも力を入れる当館が、同コレクションと初めて協働する機会となります。

タグチアートコレクション公式サイト | <https://taguchiartcollection.jp/>

2. 弘前市内のマクドナルド 4 店舗が《マクドナルドラジオ大学》の展示会場に

演劇ユニット・Port B（ポルト・ビー）主宰の高山明によるアートプロジェクト《マクドナルドラジオ大学》を、弘前市内のマクドナルド 4 店舗を会場として実施します。本作は街中のマクドナルドを学びの場である「大学」に変えるアートプロジェクトです。高山は 2017 年より国内外のマクドナルドや美術館を会場に、このプロジェクトを継続的に展開しています。講義を行う「教授」は何らかの理由で故郷を離れることになった移民や難民など様々なバックグラウンドを持つ人たちで、観客は「学生」となり、マクドナルドの店内で各自のスマートフォンを使って講義を聴くことができます。本作は世界各地の移民や難民などの方々の考えや経験を知ることで、異なる背景をもつもの同士が、ひとつの社会で生きていく多文化共生社会のモデルを模索しようとするものです。弘前で出会った「教授」による新しい講義のほか、これまでフランクフルト、ベルリン、東京、香港、金沢、ブリュッセルなどの都市で制作された講義を聴講できます。

《マクドナルドラジオ大学》公式サイト | <https://mru-hirosaki.portb.net/information/>

3. 奈良美智の創造の原点であるロック喫茶「JAIL HOUSE 33 1/3」を再現展示

本展には、弘前市出身の美術家である奈良美智の作品が出品されます。加えて、奈良が高校時代に仲間と共に作り上げたロック喫茶「JAIL HOUSE 33 1/3」を再現します。昨年度、青森県立美術館での個展「奈良美智：The Beginning Place ここから」で発表されたこのロック喫茶は、奈良にとっては広い世界への視点を開いてくれた創造活動の原点となりました。ここには音楽を通じてさまざまな世代の人が集い、フラットで豊かな関係性が生まれる場所でもありました。本展では、仲間とつくる自分の居場所／家を象徴するものとして、このロック喫茶を再現展示します。



塩田千春《どうやってこの世にやってきたの?》2012年
タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵
©JASPAR, Tokyo, 2024 and Chiharu Shiota



ロック喫茶「JAIL HOUSE 33 1/3」再現展示
「奈良美智：The Beginning Place ここから」
（青森県立美術館、2023-2024）の会場風景
一般財団法人奈良美智財団蔵
Photo: Keizo Kioku

関連プログラム

アーティストトーク：「正しい身体」のその先にあるもの

手縫いのオブジェやペイントやドローイングで装飾された義足、それらと共に写るセルフ・ポートレートなどを発表し、つねに自身の身体を通じて制作活動を続けてきた片山真理氏と、タグチアートコレクションの共同代表として片山の活動に注目してきた田口美和氏を迎えて、アーティストトークを開催します。当館館長の木村絵理子が聞き手となり、アーティスト活動と並行して歌手としても活動する片山氏が、「選択の自由」を掲げたハイヒール・プロジェクトをはじめとする作品への思いや、結婚や出産を通じて直面した社会の現実、思い描く未来についてお聞きしながら、田口氏とともにその作品の魅力について語ります。

出演 | 片山真理 (アーティスト)
田口美和 (タグチアートコレクション共同代表)
聞き手：木村絵理子 (弘前れんが倉庫美術館 館長)
日時 | 2024年9月28日 (土) 17:30-19:00
(受付開始 17:00)

会場 | cafe & shop BRICK (弘前れんが倉庫美術館 隣接)
料金 | 500円 (ワンドリンク付)
定員 | 50名
WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/9508/>

本イベントは終了しました。Youtubeでアーカイブ動画を公開しています。
https://youtu.be/Zbl_ipa-nso?si=5BjSqe8_mMZravxg

学芸スタッフによる解説ツアー

当館学芸スタッフが展覧会の見どころを紹介します。

日程 | 2024年10月13日 (日)、11月3日 (日)、12月8日 (日)、
2025年1月12日 (日)、2月9日 (日)
時間 | 11:00-11:30
料金 | 無料 (要当日観覧券)
申込み | 不要
集合場所 | 1階 受付前
WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/9510/>



片山真理《傍観者 #014》2016年
タグチアートコレクション蔵
© Mari Katayama



片山真理



田口美和



杉戸洋《ダンシング・マン》2007年
タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵
© Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
Photo: Shigeo Muto



尹秀珍《ポータブル・シティ：弘前》2020年
弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo: Naoya Hatakeyama © Yin Xiuzhen

映像作品上映

- [A] ハンス・オプ・デ・ピーク 《ダンス》 2013年（約10分）
インカ・ショニバレ CBE 《オディールとオデット》 2005年（約14分）
日時 | 2024年10月13日（日）、2025年1月3日（金） 両日 10:00-17:00
- [B] ムン・キョンウォン & チョン・ジュンホ 《妙香山館》 2014年（約22分）
日時 | 2024年11月3日（日）、2025年1月12日（日） 両日 10:00-17:00
- [C] 山城知佳子 《チンピン・ウェスタン 家族の表象》 2019年（約32分）
日時 | 2024年12月8日（日）、2025年2月9日（日） 両日 10:00-17:00

会場 | スタジオ B ※ループ上映

料金 | 無料（申込み不要）

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/9837/>

高山明による弘前大学での講義

当館が実施する弘前大学への寄附講義「現代美術演習」で、高山明氏による講義を行います。本講義は受講生のほか、一般にも公開されます。

講師 | 高山明（アーティスト）

日時 | 2024年12月15日（日） 14:00-15:30（受付開始 13:30）

会場 | 弘前大学 教育学部棟 2階・203教室（青森県弘前市文京町1）

料金 | 無料

定員 | 一般参加 60名

申込み | 事前予約優先

WEB (Peatix) <https://20241215lecture.peatix.com/>

電話 0172-32-8950

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/9526/>

高山明による小学校での授業

弘前大学教育学部附属小学校で、高山明氏による授業を行います。

講師 | 高山明（アーティスト）

日程 | 2024年12月16日（月） 13:40-14:25

会場 | 弘前大学教育学部附属小学校（青森県弘前市学園町1-1）

対象 | 弘前大学教育学部附属小学校 5年生

※一般の方は参加いただけません



高山明 / Port B 《マクドナルドラジオ大学》
フランクフルト 2017年
タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵
Courtesy of MISA SHIN GALLERY
Photo: Masahiro Hasunuma



ミカ・ロッテンバーグ
《宇宙製造機（ガーランドの変種）》 2019年
タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵
© Mika Rottenberg, Courtesy of the artist and
Hauser & Wirth



マウリツィオ・カテラン
《無題（エレベーター）》 2001年
タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵
Photo: Attilio Maranzano
Courtesy of Maurizio Cattelan's Archive
and Galerie Emmanuel Perrotin

ラーニングプログラム

各プログラムは取材いただけます

東京サテライト企画

トークイベント×哲学対話

日程 | 2024年11月8日(金)

会場 | TODA BUILDING 3F APK ROOM (東京都中央区京橋1-7-1)

主催 | タグチアートコレクション (一般社団法人アーツプラス現代芸術研究所)

第1部 トークイベント

講師 | 木村絵理子 (弘前れんが倉庫美術館館長)、田口美和 (タグチアートコレクション共同代表)

時間 | 2024年11月8日(金) 19:00-20:00

料金 | 無料 (予約不要)

※人数により立ち見となる場合があります

第2部 哲学対話

講師 | 永井玲衣 (哲学者)

時間 | 2024年11月8日(金) 20:00-21:30

料金 | 2000円

対象 | 高校生以上

定員 | 30名

申込み | 事前予約優先・先着順

※10月11日(金)より申込み受付開始 (Peatix)

WEB (Peatix) <https://peatix.com/event/4140048>

プレイフルワークショップ

「コミュかん～展覧会をみて・話して・共有する コミュニケーション×鑑賞の時間～」

「人生の旅」をテーマに展示室をめぐり、話して、展覧会を見て感じたこと、思ったことをもとにワンシーンを創作します。コミュニケーションと想像を通じて展覧会を鑑賞するワークショップです。

講師 | 太田歩 (演劇ユニット 一揆の星)

日時 | 2024年11月9日(土) 13:30-16:00

会場 | スタジオB、展示室

料金 | 無料 (要当日観覧券)

対象 | 高校生以上

定員 | 10名

申込み | 事前予約優先・先着順

※10月12日(土) 10:00より申込み受付開始

WEB (Peatix) <https://20241109ws.peatix.com>

電話 0172-32-8950

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/10145/>



プレイフルワークショップ

「あそびじゅつかん ～親子向け作品鑑賞の時間～」

親子で作品鑑賞しませんか？演劇教育の手法を取り入れた「あそび」を通して、作品を見て思ったことや感じたことを表現してみましょう。

講師 | 太田歩（演劇ユニット 一揆の星）
宮崎充治（弘前大学教育学部教授）

日時 | 2024年12月21日（土）10：30～12：00

会場 | スタジオ B、展示室

料金 | 無料（要当日観覧券）

対象 | 年長～小学3年生とその保護者 ※子どもだけの参加は不可

定員 | 10組（1組につき保護者を含む最大3名まで）

申込み | 事前予約優先・先着順

※11月初旬より申込み受付開始（予定）

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/10189/>

※プログラム終了後には30分程度、教員向けのアフタートークを実施予定



対話による鑑賞×哲学対話

永井玲衣さんと、生きることと幸せについて考えよう（仮）

展覧会タイトルである「どうやってこの世界に生まれてきたの？」という哲学的で大きな問いを受け取り、他者と対話をしながら作品の意味を分かち合い、展覧会の主題についてじっくり考え合うプログラムです。展覧会場で印象に残った作品を対話しながら鑑賞したあとは、講師である哲学者の永井玲衣さんと共に哲学対話を行います。

講師 | 永井玲衣（哲学者）

日時 | 2025年1月13日（月・祝）13：00～16：00

会場 | スタジオ B、展示室

料金 | 無料（要当日観覧券）

対象 | 高校生以上

定員 | 20名

申込み | 事前予約優先・先着順 ※11月中旬より申込み受付開始（予定）

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/10191/>

プレイフルワークショップ

「おはなしスケッチ ～作品鑑賞×劇作ワークショップの時間～」

展覧会の展示作品を鑑賞し、作品をモチーフにして人形劇をつくってみましょう。演劇の台本（おはなし）を創作する「劇作」を体験するワークショップです。材料などは美術館で用意します。

講師 | 藤島和弘（演劇ユニット 一揆の星 主宰）

日時 | 2025年1月18日（土）13：30～15：30

会場 | スタジオ B、展示室

料金 | 無料（要当日観覧券）

対象 | 中学生以上

定員 | 12名

申込み | 事前予約優先・先着順

※11月中旬より申込み受付開始（予定）

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/10193/>



その他のプログラム

「れんが倉庫部」による建築ガイドツアー

当館のボランティアプログラム「れんが倉庫部」の部員がガイド役となり、館内を巡りながら建物の歴史や見どころについて解説します。

日程 | 2024年10月19日(土)、11月16日(土)、12月21日(土)

2025年1月18日(土)、2月15日(土)

時間 | 11:00-11:30

料金 | 無料

申込み | 不要

集合場所 | 1階 エントランス

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/9524/>

学生鑑賞支援プロジェクト 2024 秋 supported by 弘前天賞堂

弘前市内の大学および専門学校に在籍する学生・専門学校生は、期間限定で本展を無料で鑑賞できます。

期間 | 2024年11月1日(金) - 11月10日(日)

対象 | 下記の大学・専門学校に在籍する学生・専門学校生

[大学] 弘前大学、弘前学院大学、柴田学園大学、弘前医療福祉大学、放送大学青森学習センター

※大学院生、短期大学部の学生を含む

[専門学校] 青森県ヘアアーティスト専門学校、サンモードスクールオブデザイン、弘前厚生学院、弘前市医師会看護専門学校、弘前総合医療センター附属看護学校、S.K.K. 情報ビジネス専門学校

利用方法 | 受付で学生証を提示(申込不要)

協力 | 弘前天賞堂

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/10154/>

美術館のお正月 2025

2日間限定の新春イベントです。当館のオリジナルグッズが当たる「美術館ガチャ」をはじめ、子どもから大人までお楽しみいただけるイベントを予定しています。1月3日には、本展上映プログラムも実施します。

日程 | 2025年1月2日(木)、1月3日(金)

WEB | <https://www.hirosaki-moca.jp/events/9512/>

コラボメニュー

当館隣接のカフェでは、本展出品作家のキュンチョメの映像作品《完璧なドーナツをつくる》を上映しています。本作から着想されたオリジナルのデザートを提供します。

メニュー名 | 完璧なドーナツをつくる

販売価格 [税込] | 単品 500円、ドリンクセット 800円

販売期間 | 2024年10月5日(土) - 2025年3月9日(日)

場所 | cafe & shop BRICK (当館隣接)



開催概要

- | 展覧会名（日本語）： タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館
どうやってこの世界に生まれてきたの？
- | 展覧会名（英語）： Taguchi Art Collection + Hirosaki Museum of Contemporary Art
How Did You Come into the World?
- | 会期： 2024年9月27日（金）－2025年3月9日（日）
- | 会場： 弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市吉野町2-1）
弘前市内のマクドナルド4店舗（高山明作品のみ）
※各店舗の営業時間内に体験できます
- | 開館時間： 9:00－17:00（入館は閉館の30分前まで）
- | 休館日： 火曜日、12月26日（木）－1月1日（水）、2月12日（水）
※2月11日（火・祝）は開館
- | 観覧料〔税込〕： 一般 1,500円（1,400円） 大学生・専門学校生 1,000円（900円）
高校生以下 無料
※（ ）内は20名様以上の団体料金
※弘前市民は当日料金から500円引き（他の割引との併用不可）
※その他以下の方は無料
弘前市内の留学生の方／満65歳以上の弘前市民の方／ひろさき多子家族応援
パスポートをご持参の方／障がいのある方と付添の方1名
- | 主催： 弘前れんが倉庫美術館
- | 特別協力： タグチ現代芸術基金、一般社団法人アーツプラス現代芸術研究所、
アート・オフィス・シオバラ
- | 協力： Port B、MISA SHIN GALLERY、弘前市内マクドナルド4店舗
- | 特別協賛 スターツコーポレーション株式会社
- | 協賛： 株式会社大林組、株式会社NTTファシリティーズ
- | 後援： 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、
青森朝日放送、エフエム青森、FMアップルウェーブ、弘前市教育委員会
- | 一般問合せ： TEL 0172-32-8950
- | アクセス： JR弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環100円バス「中土手町」下車 徒歩約4分
- 徒歩約20分
- タクシー約7分
当館には駐車場はございません
公共交通機関をご利用いただくか、近隣の有料駐車場をご利用ください
- | ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS： Instagram/Threads：@hirosaki_moca
X：@hirosaki_moca
Facebook：@hirosaki.moca

美術館について

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正時代に酒造工場として建設され、戦後はシードル工場として使われた煉瓦造の建物を「記憶の継承」をコンセプトに改修し、2020年に開館した現代美術館です。黒いコールドタールの展示壁や高さ15mの吹き抜けなど空間の特性を生かした現代アートの展覧会を開催しています。奈良美智、ジャン＝ミシェル・オトニエルをはじめ国内外のアーティストのコレクション作品を展示するほか、ライブラリーや貸出スタジオを備えています。また、シードル工房を併設したカフェ、ミュージアムショップが隣接しています。



©Naoya Hatakeyama

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

2024年10月11日

弘前れんが倉庫美術館 E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp / FAX: 0172-55-5982 宛

タグチアートコレクション×弘前れんが倉庫美術館

どうやってこの世界に生まれてきたの？

広報画像申請書

会期：2024年9月27日（金）－2025年3月9日（日） 会場：弘前れんが倉庫美術館

▼貴媒体についてお知らせください

媒体名	貴社名				
ご担当者名	所属部署				
ご住所 〒					
TEL	FAX	E-MAIL			
掲載・放映予定日	月	日	<input type="checkbox"/> 読者プレゼント（招待券）を希望する	組	名様（2025年2月末迄掲載対象）

*画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼ご希望画像の番号に○印をつけてください。ご使用の際は所定のキャプション・クレジットの記載をお願いします。

広報画像 キャプション・クレジット

- 1 ジャナイナ・チェッペ 《シクレトルミス・プルラリス（風船ガムの木）》2005年 タグチアートコレクション蔵 ©Janaina Tschäpe Courtesy of nca | nichido contemporary art
- 2 塩田千春 《どうやってこの世にやってきたの？》2012年 タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵 ©JASPAR, Tokyo, 2024 and Chiharu Shiota
- 3 ロック喫茶「JAIL HOUSE 33 1/3」再現展示 一般財団法人奈良美智財団蔵 「奈良美智: The Beginning Place ここから」（青森県立美術館、2023-2024）の会場風景 Photo: Keizo Kioku
- 4 片山真理 《傍観者 #014》2016年 タグチアートコレクション蔵 ©Mari Katayama
- 5 杉戸洋 《ダンシング・マン》2007年 タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵 © Hiroshi Sugito, Courtesy of Tomio Koyama Gallery Photo: Shigeo Muto
- 6 高山明 / Port B 《マクドナルドラジオ大学》フランクフルト 2017年 タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵 Courtesy of MISA SHIN GALLERY Photo: Masahiro Hasunuma
- 7 ミカ・ロッテンバーグ 《宇宙製造機（ガーランドの変種）》2019年 タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵 © Mika Rottenberg, Courtesy of the artist and Hauser & Wirth
- 8 マウリツィオ・カテラン 《無題（エレベーター）》2001年 タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵 Photo: Attilio Maranzano Courtesy of Maurizio Cattelan's Archive and Galerie Emmanuel Perrotin
- 9 尹秀珍 《ポータブル・シティ：弘前》2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo: Naoya Hatakeyama ©Yin Xiuzhen

(10) 本展パナー画像、(11) 本展チラシ画像を掲載いただく場合はキャプション・クレジットは不要です

▼広報画像の掲載について

- ・広報画像の使用は展覧会をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- ・広報画像をご掲載いただく場合、所定のキャプション・クレジットを必ず記載してください。
- ・全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせはご遠慮ください。
- ・掲載記事、番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でグラブリ・原稿の段階で広報までメールまたはFAXでお送りください。

▼広報画像一覧

1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1